

平成29年度 弘前市総合計画審議会議事概要 (第8回)			
日 時	平成29年11月14日 (火) 10時00分～11時30分		
場 所	弘前市役所3階 防災会議室	傍聴者	0人
出 席 者	委 員 (16人)	森会長、村松委員、高島委員、阿部委員、杉間委員、島委員、清野(眞)委員、清野(智)委員、熊谷委員、前田委員、秋元委員、山形委員、米塚委員、一戸委員、三上委員、名越委員	
	事務局 (6人)	ひろさき未来戦略研究センター所長、ひろさき未来戦略研究センター副所長、ひろさき未来戦略研究センター総括主幹、ひろさき未来戦略研究センター総括主査、ひろさき未来戦略研究センター主査、ひろさき未来戦略研究センター主事	
	その他		
会 議 概 要			
1 開会			
2 議事			
次期弘前市総合計画の素案について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。			
<ul style="list-style-type: none"> ・第2章「将来都市像の実現に向けて」に、「将来都市像の実現に向けて～「花」を育むまちづくり～」の項目が追記されており、今回の計画を弘前独自のものとしてやっていきたいという気持ちはよく伝わるが、いきなり「花」の言葉が出てくるので唐突感を感じる。タイトルにいきなり「花」と出すのではなく、例えば、「感性の花を育むまちづくり」などと一言加えることで、イメージがより伝わるようになるのではないか。 			
→指摘の内容を踏まえて、説明を加える、あるいは修正することを検討する。			
<ul style="list-style-type: none"> ・政策や施策の「目指す姿」などの計画の随所から「花」のイメージを感じられるような作りとすれば、市民も夢をもって計画を見るのではないか。 ・計画の進行管理について、PDCA サイクルで進行管理を行うと書いており、弘前市の取組は先進的な部類に入るとは思うが、様々な分野でPDCA サイクルが叫ばれている中で、「弘前独自の仕組み」と断言してしまってよいのか疑問を感じる。 			
→PDCA サイクルで進行管理を行うこと自体は、よく行われていることだが、総合計画の施策レベルで進行管理を行っているのは全国的に珍しく、他市からの視察などもある。今回は、さらに、確かな根拠（エビデンス）と感性もPDCAサイク			

ルの中に加えながら進行管理を行っていくこととしていることから、先進的で弘前独自の仕組みという言い方をしている。

- ・前回の審議会でも議論になったが計画の名称について、我々は「総合計画審議会委員」として委嘱を受けているが、審議している総合計画の名称は「経営計画」となっており、この関係についてどのように考えるべきなのか。

→条例上は、「総合計画審議会」となっているが、「総合計画審議会」で審議する総合計画の名称については、地域を一つの経営体として捉えて地域づくりを進めていくため「経営計画」としている。名称としては「経営計画」であるが、中身としては市の全体の取組を網羅する「総合計画」ということで整理している。

- ・「分野別政策」の「目指す姿」や「期待する効果」の書き方が、目的がすでに達成されている、あるいは断言するような書き方になっているが、どのような意図でこのような書き方になっているのか。

→現状では、例えば〇〇をやって□□なまちづくり目指すため、「目指す姿」としては、△△などが整っているということをイメージしているので、断言している書き方になっているが、指摘を踏まえて書き方について再度検討する。

- ・「分野別政策」の「政策の方向性の目指す姿までに至る施策と成果の図式」の書き方について、「施策の成果」と記載しているが成果と言ってしまうといいのか違和感がある。例えば、「目標」や「成果のイメージ」の方がわかりやすいのではないのか。

3 報告

弘前市総合計画審議会委員の任期について

○事務局の説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

4 閉会